

# なんもく 山村ぐらし通信

2019(令和元)年11月発行  
通巻第31号版(秋季号)

発行責任者及び発行元：  
南牧山村ぐらし  
支援協議会  
問合せ：南牧村役場  
村づくり・雇用推進課  
協議会事務局  
電話：0274-87-2011(代)

紙面編集：松林・谷津



協議会QRコード

協議会HP  
<http://nanmoku.org/>  
活動内容や各種情報を  
随時更新中！

### 【元年度7～9月 空家問合件数】

電話による問合せ 21件  
(7月 4件)  
(8月 8件)  
(9月 9件)  
メール・手紙・FAXでの  
問合せ 17件  
(7月 6件)  
(8月 7件)  
(9月 4件)  
現地物件見学案内 13件  
(7月 6件)  
(8月 3件)  
(9月 4件)

### 【協議会ウェブサイト 訪問・閲覧状況報告】

※7/24～10/21(約90日)

ページ閲覧数 61,323  
サイト訪問数 5,569  
サイト訪問者数 3,486  
(同一人は1とカウント)  
平均ページ閲覧数  
1訪問当たり11ページ

## 移住相談会に参加

南牧初の”移住支援交流コーディネーター”として  
来場者の相談に対応



南牧村ブースへの来場者に対応する市川さん(右)

はじめまして。市川淳あつしです。この春、東京から南牧に戻り仕事を探していたところ、移住支援交流コーディネーターのお役目をいただきました。村を出ていた期間が長かったので変わったことや忘れてしまったことも多く、勉強の日々を過ごしています。村への移住や交流支援のほか、微力ながら協議会もお手伝いさせていただけますので、よろしくお願ひします。

7月15日に、群馬県主催の移住相談会「夢を叶える移住先 縁結びフェア」が、東京交通会館で開催され、私もコーディネーターとして初めて参加しました。相談会には80組123名が来場し、うち南牧村ブースには、5組6名が来訪しました。私も移住希望者の質問や相談に対応し、村の魅力のアピールに努めました。相談会では、あなたの夢と移住先のマッチング座談会や先輩移住者ゲストトークなどのセミナーも同時に行われ、私も一部聞かせていただき、とても勉強になりました。会場内には、ハーバリウムボールペンづくりの体験コーナー、ジュンベリージュースの試飲コーナー、農産物の展示販売などが設置され、子どもを連れた来場者から好評を博していました。

今後移住相談会に参加して、村への移住者獲得に貢献できるよう、活動に励みたいと思っています。市川寄稿

## ニワトリタマゴの話

丁寧・健康に飼育している黒鶏の卵を道の駅に届けています



飼育している黒鶏「ネラ」



地面に放して飼う「平飼い」で育てています

庭ツトリ卵」と書いて、「ニワトリタマゴ」と呼びます。約5年前に平飼いの有精卵として、道の駅オアシスなんもくで販売を始めました。養鶏を始めてから一年、また一年と羽数を増やし、現在では140羽を飼育するまでになりました。おかげさまで、卵は毎回完売という、とてもありがたい状況が続いています。お土産としてご購入されたり、卵の宣伝をお手伝いされたりした多くの皆さまに、心から感謝いたします。

では、あまり品種改良がされていない「野生種」と呼ばれる品種です。原産国はオランダですが、その原種はアフリカから来ていると言われていて、暑さに強く、向いていて、暑さに強く、体格が良いのが特徴。餌を食べる量が少々多いので餌となる飼料を準備する農家にとっては大変ですが、卵の美味しさには換えられませんが、皆さまがおいしいと言ってくださることが励みになっていきます。今後も、元気で健康な鶏を、丁寧に飼育していきたいと思ひます。五十嵐寄稿

## 『ぶらいなんもく村』

～オデデコ注意報～

自宅から道の駅へと歩いていたら、小粒の黒い群れが、腹ばいで道路を横切っているのが見えた。身の毛がよだつ予感を背筋に感じながら、そろりと近づいてみると、うええ、オデデコだああ！胴体が黒く、頭とおしりが橙色のオデデコ。フクラスズメガの幼虫が、二本の角をこちらに向けて、首をブンブン振りながら威嚇してきた。きも・ち・わ・りい。虫との共生は、南牧において必要不可欠なスキルだろう。しかし、夜になると網戸やガラスにへばりつく虫たちを無視できないようにするのは簡単ではない。そこで我が家では、虫よけバリアを作ることにした。玄關に吊るす、網戸に貼る、物干しぎおに吊るすという3タイプは一度に使用したバリアであ

「オデデコ」は、南牧の方言らしい

# タイムマシーンなんもく号

今使われている小学校の校舎は昭和54年に完成し、子供達が通い始めました。その中に自分もいて、学年が進むと上の階に上がる事が秘かな楽しみでした。それ以前の校舎は中庭の遊具が置かれていた。旧給食センター側が一年生、体育館側が四年生。五・六年生は別の二階建ての校舎で、現校舎辺りにありましたね。それで、四年生教室の向こうにトイレがあって、低学年生はトイレに行くのに非常に勇気が必要でした。

さて、下の写真の校舎は大正初期の磐戸尋常高等小学校です。村誌によれば、明治32年新築です。後日、左奥に新校舎が新築されました。この頃、大正5年の人口は、旧磐戸村で4568人。その中の相当数の子供がこの校舎で学んでいたでしょう。

写真中央にある渡り廊下、全く同じではないけれど、朧気ながら見覚えがあります。その痕跡は今もあるんですね。  
 〓金田寄稿〓



出典：ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 富岡・甘楽

## いのちの密度

命の密度が濃いと、つくづく思う。朝起きて庭に出た時や、バイトの草刈りをしていさな草の勢いや虫たちの多さを間近にすると、改めて感じる。

ふと、20年以上前、ヨルダンからイスラエルへ向かうバスの車窓から見た、荒涼とした砂漠を思い出した。この景色の中だからこそ一神教が生まれたのだ、とその時確信した。

そして今住んでいる南牧村の景色にどっぷり浸かっていると、八百万の神様だよなあ、と納得させられる。自分が調べている、諏訪信仰のルーツと言われるミシヤグチ神もまた、あらゆるものに宿る生命の精霊である。覆いかぶさるように迫る南牧村の山々の緑を見ると、縄文の昔と私たちの感覚が繋がっている実感する。そういうば、今朝も鹿が鳴いていたっけ。

〓三好寄稿〓



村内のあちこちに出没する鹿

## 南牧村の古い写真を探っています

昔の南牧村の様子や生活、構造物や行事等を記録した古い写真を探しています。写りが悪くても、折れて曲がっていても大丈夫！ぜひいちど引出の奥を覗いてみてください。お知らせ頂ければ、お伺いしたりお借りする方法で、デジタルデータとして撮影、保存させていただいて公開を目指しています。  
 〓役場村づくり・雇用推進課高柳まで〓

## 協議会が知るの知事

山村ぐらし支援協議会では、使われなくなっている古い民具・道具・木製の建具などを、村民のみならずからご提供頂き、この村へ移住をされた方などが活用できるような制度を準備し、少しずつですが動き始めています。『これ、良かったら、使ってください！』という古民具や木製の建具などがございましたら、是非お知らせください。  
 〓役場村づくり・雇用推進課高柳まで〓

## 柵石の魅力

～村の魅力を再発見～

柵石は古くから南牧村のあちこちで石垣やお墓の石などに使われており、村の皆さんには結構なじみの深い石かもしれません。その名の通り村の柵地区より掘り出される石です。創業江戸末期と言われるように、一五〇年以上も昔から採掘されており、現在でも五代目の頑固職人？が元気に石刀を振り、鑿（のみ）の音を響かせています。

その柵石をちよっと詳しく紹介します。柵石は今からおよそ一八〇〇万年前に形成されたと考えられており、岩石の分類では火成岩の中の安山岩に属しています。火成岩は比較的硬い石が多いですが、石の性質は他の火成岩に比べて柔らかく加工しやすいのが特徴です。

また色調は灰色、緑色、茶色と様々な色味を有しています。どれも比較的柔らかい色合いなので、和風にも洋風にもその環境を邪魔することなく調和することが出来ます。因みに吸水率は結構高く、おおよそ4.8%あります。これも一見弱点に思われますが、雨風

や太陽の光などの自然環境にうまな使われているのですから。溶け込めるといふ利点になっていきます。石垣の積み石に古くから使われているのもっともいい例です。このような特徴を持っているからこそ、今日まで様々なところで使われて来たのだと思えます。昔は今のように数字で特徴を表すことは出来なかつたでしょうから、昔の方々は目で見て、実際に使ってみて、経験からこの石を日常の様々な場所に取り入れて使っていたのだと思うと、昔の方の知恵ってすごいなと感じます。その同じような使い方でも



昭和6年磐戸村の救済事業として村道柵線に柵石を使いアーチ式の石橋を建設